

## 「九州オリエント急行」構想による九州観光の活性化

平成 23 年 3 月 12 日(土)九州新幹線が全線開業した。しかし、博多・熊本・鹿児島は利用客が増え活性化しているが、途中の各駅は通過駅となり必ずしも新幹線効果は上がっていない。さらに、地方のローカル線は一部を除いて利用客が減少し厳しい状況に置かれている。各地域が魅力あるまちづくりに努力していくことは当然であるが、それをサポートし、促進する仕掛けも大事である。

そこで、私は博多または小倉から鹿児島中央までの東周りの「九州オリエント急行」(定期列車)を実現し、魅力ある九州一周の旅を全国、世界(特にアジア)にアピールすることを提案したい。この提案の特徴は以下のとおりである。

西周りの九州新幹線が、目的地に速く到着するための鉄道であることに対して、東周りの「九州オリエント急行」はプロセスを楽しみながら、つまり途中下車をしながら、スローな旅を楽しむ鉄道であり、新幹線効果から疎外されている東九州の活性化を視野に入れたものである。

現在すでに、JR九州は博多から大分・由布院を経由して鹿児島に行く豪華観光列車の計画を 2 年後の運行開始をめざしてすすめている(2011 年 1 月 30 日発表)。この計画は、2 泊 3 日のパッキングツアーで 15~20 万円の料金で富裕層や定年退職後の夫婦旅行者をターゲットにしている。

私の「九州オリエント急行」案は、日常的な定期列車であり、富裕層だけでなく誰でも気軽に利用できる列車である。どこで途中下車するかは個人が自由にプランできるもので、ルートは博多~小倉~日豊本線で鹿児島へ向かうものである。2010 年 9 月 4~5 日に NHK B Shi で放送された「ブルートレイン九州一周の旅」臨時列車の定期化でもある。

この案のメリットは、ローカル線に乗り換えて、さらに各地方を旅行することができ、ローカル線および沿線地域の活性化に寄与することが期待できる点にある。JR九州は、利益至上主義ではなく、公共交通機関としての社会的使命の原点に帰り、切り離した赤字路線の活性化にも貢献する社会的使命があるのではなかろうか。

列車の内装イメージは、現在 JR九州が公表しているものと基本的には同じで、多少豪華さを抑えてコスト削減することにより採算性は十分とれると思われる。

以上、九州オリエント急行の実現は、東九州および各ローカル線沿線地域の活性化とともに、九州全体の観光開発・活性化に強力なインパクトを与えることができると信じている。